



# 平成24年度 絵画部門



 **金賞**



「夜桜」

小野 瑞佳

善導寺小学校

私は、一本桜の夜の風景を見て、とても神秘的なものを感じたので「この風景の神秘さを絵に残したいな」と思い、この絵をかきました。特に、水にうつっている桜にも神がやどっているような美しさを感じさせられたので、桜だけでなく、池にうつっているところもかきました。また、「夜」というところでも、桜のかがやきが、いっそうひきたてられました。

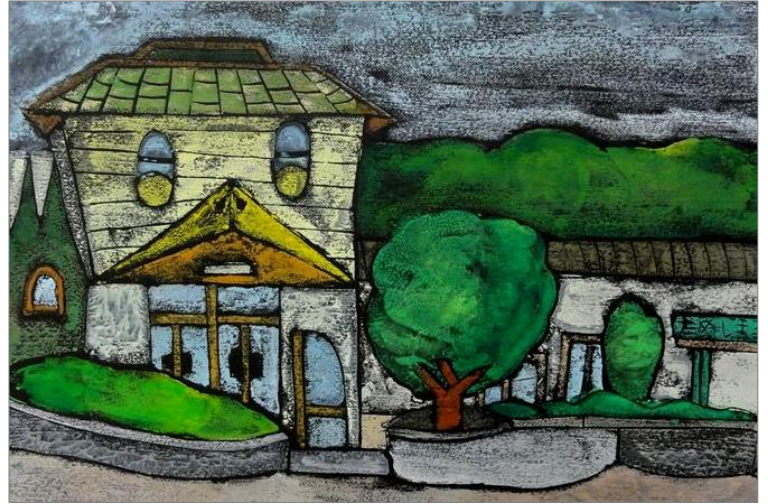
# 銀賞

## 「わたしの好きなかっぱ駅」

豊田 麻友

水分小学校

私がすんでいる田主丸町の有名なものはかっぱです。田主丸には、カッパをモチーフにしたものがたくさんあります。その中でも、田主丸のかっぱ駅が1番好きです。だから私は、かっぱ駅をかきました。



## 「ちくご川花火大会」

山下 このみ

長門石小学校

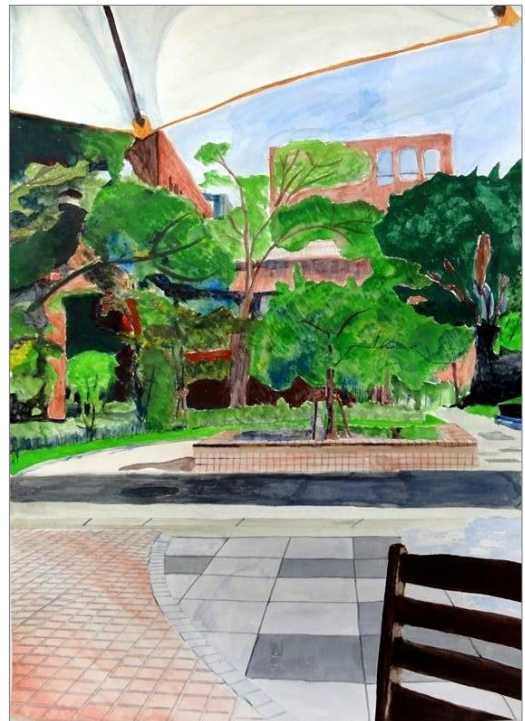
まい年あるちくご川花火大会の花火は、いろいろな色がきれいで、元気がついたりするのでいいと思いました。花火の日は、大会の前はワクワクして、終わった後は元気がついて、一年の思いにまい年なるので、かんどりました。みんなも花火大会の前はワクワクして、終わった後は元気が出ると思います。それをつたえたかったので、ちくご川花火大会のいいところを、すな絵でかきました。

## 「石橋美術館のカフェ」

古賀 薫実子

北野中学校

私がこの景観を選んだ理由は、夏休みに石橋美術館に行って、石橋美術館のカフェのいすにすわった時、1本1本葉の色が微妙に違う木や、ひろに見える図書館を見た時、この自然あふれる木々を表現したいし、今回のテーマでもあるように、この景観をずっと残していきたいと思い、かきました。





# 銅賞



どうしてこの絵をかこうと思ったか、わけは、くじらの森のペンキょうをして、くじらの森はふなごしの人たちからとても大事にされていると思ったからです。

「くじらの森」  
竹内 一花

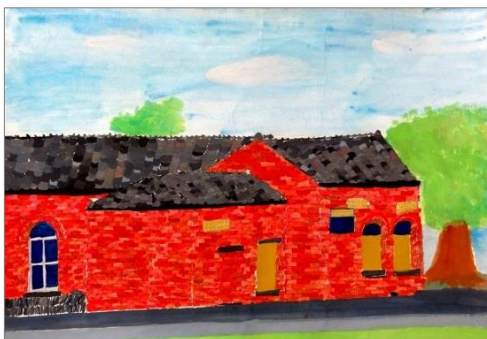
船越小学校



わたしは、何で花火大会をかいたかというと、それは花火がとてもきれいだからかきました。くふうしたところは、花火をいろんな色でぬって、とてもきれいにしたところです。むずかしかったところは、魚をかくところがむずかしかったです。

「ちく後川花火大会」  
石橋 舞子

長門石小学校



小学校のときにいった、ポンプ所が印象に残っていたので、この絵をかきました。レンガ造りの建物は、久留米市でここを初めて見たので、この建物を未来でも残っていてほしいです。工夫した所は、レンガ1つ1つの色を変えて色をぬった所です。

「旧三井寺ポンプ所」  
高松 奈緒子

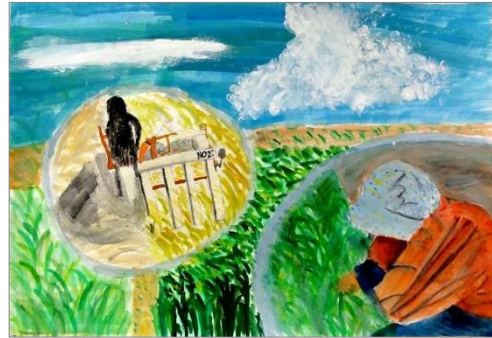
三滞中学校



「はなび」  
今村 陽菜

上津小学校

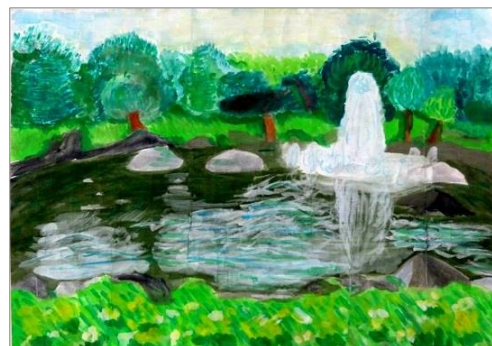
おじいちゃんのいえにいくと、まいとしはなびをみにいきます。ゆかたをきいていきます。はなびはきれいで、いろもきれいなので、このえをつくりました。



「未来に残したい田んぼ」  
北村 真海

三滞中学校

だんだん社会が進んでいくと建物が増えます。その分、田んぼや畑などの場所が減ってきているのです。顔が見えないのは「あなたが次はやる番ですよ。」ということを表しています。あと一つ理由があります。それはこの稲ができるまでには、色々な人の苦勞があるということ。苦勞して作った田んぼだからこそ残しておきたい風景なのです。なので田んぼはへらすのではなく増やしたいです。



「大好きだった公園の池」  
富松 のどか

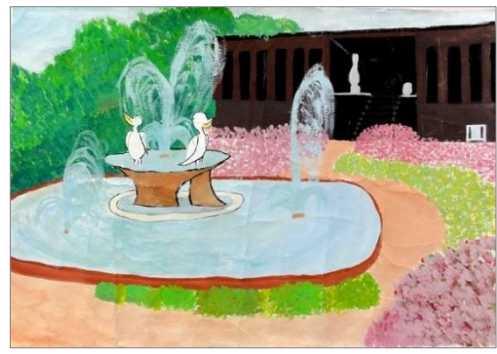
三滞中学校

この絵にかいたこの公園は、私が小さい頃からある、近くの公園の池です。今は、この絵のように水はにごっていて、このごろは、ぶん水も出なくなっています。私は、ここが前はすごく気に入っていました。だから私は、前みたいにきれいな池になってくれたら嬉しいです。



「薔薇が咲きほこった石橋美術館」

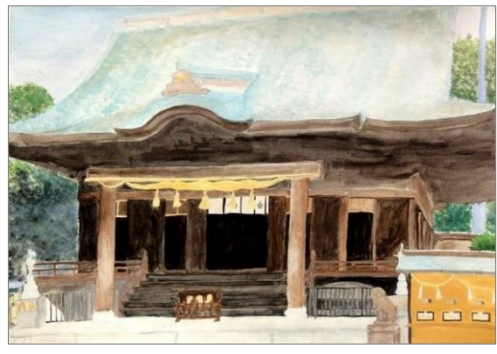
石井 胡桃 三漕中学校



私がこの場所を選んだ理由は、祖母が「ちょうどこの時期に咲く薔薇がきれいだから」と言っていたので、いっしょに行った時とても美しかったからです。2つ目は、私は花がとても好きだったので、ぜひ自分の手で描きたい、この景観を残したいと思ったからです。たまに見る美術館だけでなく、花が咲く時期、種類によって景色が変わるので、四季をこれからも美術館を見て楽しみたいと、描いた時思いました。

「水天宮」

北島 里美 荒木中学校



最初、このコンクールに描く絵を迷っていて、一番に思い浮かんだのが水天宮でした。水天宮には正月にいつも参拝していて、有名な神社だったことがこの絵を描こうと思った理由です。神社を描くこと自体が初めてで、下描きで形をとっていくことが難しかったです。色は茶色の部分が多くて、少しずつ色を変えていったり、屋根も明るい色だったので、工夫して塗っていきました。

「からくり儀右工門大時計」

道上 惟那 櫛原中学校



私は長い間この久留米市に住んでいるのですが、私にとって一番思い出があって大好きなのが、JR久留米駅のあのからくり時計です。そして、からくり時計の好きなどころは、黒色にはえる金色のもようだったので、そんな大好きな時計を自分の手でかきたいと考えました。だからこの景観を選びました。

「玉垂宮のお宮」

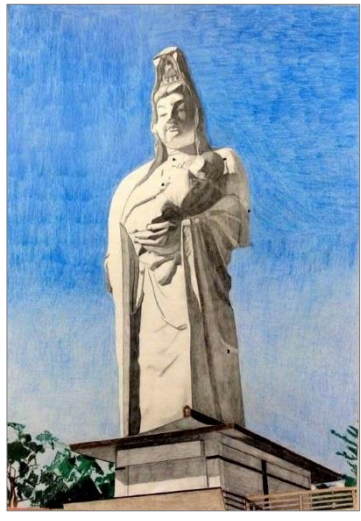
森 一華 城島中学校



奥行きがとても深いと思ったから、この景観にしました。最初はとても暗く、奥のお宮がとても明るいきれいにみえました。前の暗さが、奥のお宮を魅せていると思いました。

「久留米成田山の救世慈母大観音」

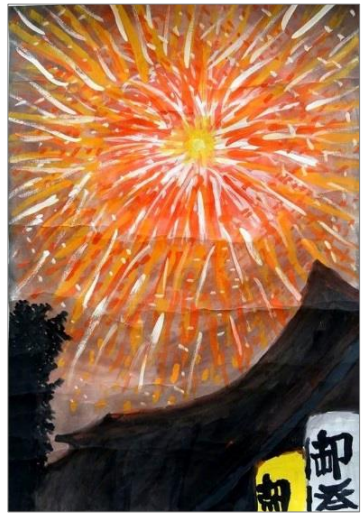
平井 英樹



観音様が難しそうだったけど、久留米に行った時の思い出に残っているので描きました。お寺や観音様に陰をつけて立体的に見せるのが難しかったけど、工夫したところです。背景の空の塗り方も工夫しました。

「筑後川花火大会」

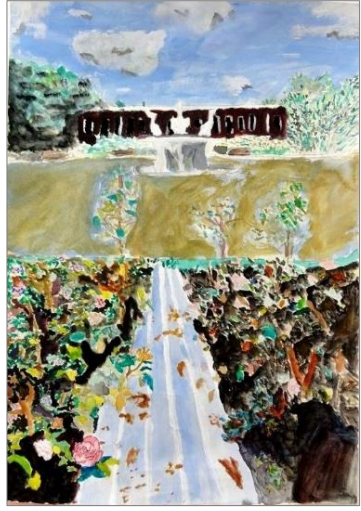
松本 雅嵩 三漕中学校



今年の筑後川花火大会は、友達といっしょに見にいきました。中学最後の夏、とても思い出になりました。河川敷の一番前でみる花火はきれい、「ドン、ドン」という音がなるたびに、胸の中でも「ドン、ドン」と響きました。また、屋台もたくさんあり、みんなで焼きそばやお好み焼きを食べながらみるのも楽しかったです。花火の中で一番印象に残ったのが、水天宮から見えた花火です。オレンジの花火の「ドン」という音といっしょに周りのものもオレンジに染まっていた。

「ペリカンプールとバラ」

八尋 美保 北野中学校



夏休みに石橋美術館に行って、いんしょうに残った絵をかきました。



「赤い鳥居」

岡村 卓命  
荒木中学校



私は、風景画は苦手なほうなので、自分なりにがんばりました。作品にした理由は、自然と鳥居がとてもマッチしていて、きれいに見えたからです。

「心地よい場所」

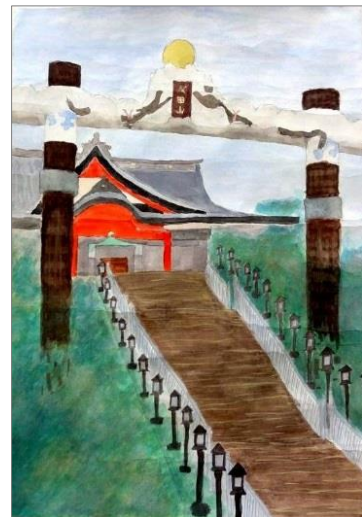
高橋 蒼  
北野中学校



イスのしるりに緑がたくさんあるため、とても心地よい空間に見えたので、この風景をかきました。そして石橋美術館にたくさんの緑があるということ、よりたくさんの人に知ってほしいと思います。この絵をたくさんの人に見て頂いて、石橋美術館に足をこんでいやすべてほしいです。

「成田山」

安藤 弥沙  
荒木中学校



久留米といえば成田山だったので、この景観を選びました。私は成田山は大きな像のイメージがあって、この門を見たとき、印象に残ったので描いてみようと思いました。存在感のあるこの門は、見たときに「おお」と思いました。成田山に来る人を迎える門だと思うので、ぴったりです。階段の横に並んでいる明かりをつけるようなところは、昔の歴史に出てきそうな感じがして、日本の感じが出ていいなと思いました。奥にある建物も趣があっていいと思います。

「北野天満宮」

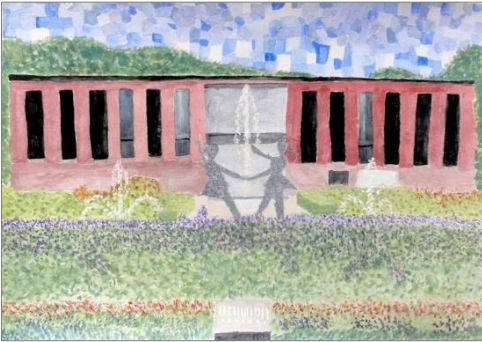
久保田 華音  
北野中学校



私が北野天満宮をかけた理由は、北野天満宮を歩いてみたかったからです。それだけです…。

「みどりのリズム」

池田 賢広  
榊原中学校



僕がこの景観を作品にした理由は、久留米市の文化と自然と合わせて描きたいと思い、家の近くに石橋文化センターがあって、ここにしました。木の緑と草の緑の違いを出すために、点描法で描きました。噴水の水をきれいに表せるように、頑張って描きました。久留米の自然はとてもきれいでした。

「この町のTRAIN」

吉村 翼  
榊原中学校



毎日見あきるほど見ている電車を、今回は近くの踏切から絵に表してみました。本当にないげない、ありふれた風景だけど、ほくの町にはかけせない景観です。

「帰郷」

最所 崇



久留米市へ帰ってきたことを実感する時は人によって様々だと思います。「懐かしい記憶に思いを馳せながら電車に揺られていると、やがて耳納山麓がうすうすと姿を現し、そして工場や建物の影が濃く大きくなり、そして最後に大河筑後川が眼下に広がったときに、安心感と懐かしさに包まれ、久留米に帰ってきたことを実感するんだ。」という学生時代の友人の話が心に残っており、心の中の景観ではないかと思いました。

平成24年度  
写真部門

金賞



「黄色い絨毯」

原田 由香

久留米の景観を代表する耳納連山をバックに、筑後川河畔の菜の花をおさめました。近年は護岸改修工事などで「黄色い絨毯」が少なくなった様に思います。是非ともこの美しい景観を守っていききたいものです。



# 銀賞

## 「BSIけやき通り」

村田 國廣

通るたびに、一度撮ってみたいと思っていた場所です。日曜日の早朝、通行量の少ない時間帯を選び、撮影してみました。



## 「善導寺 除夜の鐘」

飯田 恭平

久留米市の東部に鎮座する善導寺は浄土宗大本山の一つです。今宵は特別な日。夜空に殷々と響く鐘の音百八つが、一年間の煩惱を払いのけ、清らかな心になって新年へと誘います。来る辰年が、平和で良い年でありますようにとの願いが、篝火を高揚させ舞い降りる辰の様にも見えます。

## 「専念寺と路線バス」

権藤 好子

鎌倉時代に開基されたという専念寺沿いの街道を、ゆったりと路線バスが通過する様子は、過去と現代が織り交ざった不思議な風景でとても気に入っています。悠久の歴史を感じるこの風景をいつまでも残したいと思い、写真を撮りました。





# 銅賞



春の久留米ふれあい農業公園でのひとコマ。晴天と新緑、そしてそれらの自然を楽しむ親子や友人達。背景の耳納連山と共に、この素晴らしい景観を是非伝えたいと思い撮影しました。

「春の久留米ふれあい農業公園」  
眞武 和彦



高良大社本殿前のもみじの木の紅葉、真っ赤に色づいて、誰もが思わず「わあ、きれい！」と感嘆の言葉を出して見て行かれます。

「高良大社の紅葉」  
飯田 剛久



田主丸阿蘇神社と樹齢1500年以上と言われる大楠。神社と樹木の両者は、歴史の重みを感じさせる。目まぐるしい早さで移り変わる時代に、それらの変わらぬ姿は後世に伝えるべき景観であると思い撮影しました。

「阿蘇神社と大楠」  
前田 康弘



わたしは、はなびたいかいのしゃんをとりました。パパとママとりなちゃんといった、はなびたいかいでみたはなびがきれいだったので、とりました。かめらのしゃったーがおそいので、はなびがあがったら、すぐにしゃったーをおしました。たのしかったので、もういちどとりたいです。パパとママとりなちゃんといきました。きれいでした。

「はなび」  
加藤 さくら 上津小学校



街中にある神社で、緑に囲まれた静かなたずまいは心が落ちつきます。

「北野天満宮」  
徳永 美子



戦後から区画整理が1回も行われてこなかった昭和基地新世界。昭和から平成、アナログからデジタルへと世間は変わりゆくが、それとは無関係に生き抜いてきた木造建築達。張り出した看板は、その古い日本家屋とは対照的に存在感を表す。一歩足を踏み入れると、途端にタイムスリップし、聞こえてくる昭和残唱。映画的な気分も味わうことが出来るが、ブームで造られたテーマパークと違い、生の迫力がある。取り壊しを目前に控え、変わりゆく世間に対し「大切な物まで昭和に置き忘れてきていないか。」静かに訴え続けている。

「昭和残唱」

坂井 輝和



「鎮かなる春」

原田 博美



浦山公園の満開の桜の間から観音様の御顔を見る事ができました。幾千、幾万もの花に囲まれた御顔がいつもにもまして鎮かで、おだやかなものに感じられました。

「弾丸列車 六五郎」

石川 美智枝



小さい頃から「ろっころ橋」と親しんできた六五郎橋。お色直した赤い橋を、黄金の大草原を疾走する列車に例えるのは、少し無理があるかしら…。

「花しょうぶ咲く石橋文化センター」

田中 正美



石橋文化センターは文化ホールでのコンサートや美術館での催し物はもちろんのこと、四季折々の花の時期等、庶民の憩いの場として子供から大人まで楽しめる貴重な財産だと思っています。特にゆとりと広がりのある庭園は、特別なイベント等が無くても、のんびりと心を開放できる癒しの空間となっているようです。写真は6月の花ショウブの頃のものですが、魚や鳥たちとの出会いも楽しみの一つです。

「蓮華草の咲くころ」

福原 良一



耳納の里にも、春が訪れ、レンゲソウが満開です。

「花びら」

永露 賢次



十数年前から今回まで、5回くらい撮影しておりますが、いつも変わらぬ一本桜(山桜)の姿は驚嘆に値します。周辺が見事に整理され、全国から観光にみえる方も満足されましょ。地元有志の方々のボランティアと照明や水環境等々、本当に感謝しながら撮っております。私は戦中派で散る桜を思めぐらすのですが、この桜は水面にキレイに姿を残すので大好きです。言葉は語らないが、どうか永遠に咲き続けてほしいと念じております。

「酒と瓦の里」

今村 正勝



私が昔から見ていた風景で、酒蔵と瓦と紅葉の融合がとても美しく感じました。

「秋」

村田 與志枝



自然に舞い落ちた紅葉や檜の木の葉が折り重なって、秋の深まり、自然の成り立ちを教えられる場所です。いいところです。





「静かなライトアップ」

鶴崎 政志

たまたま架橋の補修工事でもしていたのか、強力なライトにクッキリと浮かび上がる九州自動車道の架橋。日中に見るのとは全く異なるその佇まいと、構造美に思わず撮影していました。名所旧跡だけでなく、こういう場所のライトアップもいいのではないかと思った次第です。



「彩りの筑後川」

小串 泰子

久留米といえばいろいろあるけれど、私はなんといっても筑後川花火大会。ものすごい数の露店と、打上げ花火と、筑後川の組み合わせがどれも絵になり、毎年必ず撮影に出かけています。また、景観だけでない魅力もあります。昔ながらの花火大会を感じさせるところも好きです。進行の仕方や花火の区分名など、この久留米エリア特有のものなのだなと感じられます。



「鎮守様のいちよう」

久富 順子

晩秋を迎え、色冴える境内。幼い頃に良く遊んで知っているはずなのに、気付かなかった金色に輝くいちようの美しさを発見しました。石碑などは変わらないけれど、木々の生長に時の移ろいを感じ、残したい景観の1ページとして応募しました。



「火渡り」

田村 英雄

この作品は毎年この場所に撮影に行きます。田主丸町石垣観音寺は、久留米市の東端に位置し、673年に開創、本年1340年の歴史を持つ古い寺院です。寺の中には市指定文化財、推定樹齢350年のハルサザンカがあり、春にはサザンカ祭があります。写真の火渡り祭事は毎年1月に行われ、市民はもちろん、遠くからの信者の人々で賑わいます。ぜひ田主丸町景観の一つとして、残して頂きたいと思い応募します。



「秋の足音」

合原 優

榎並木が有名な山本町ですが、背を向けて発見しました。いつも塚の中で、とても親しみ易いといった場所ではありませんが、JR久大本線から一瞬見える景色に、確かな秋の足音を聞く事ができて、残したい一枚と思い、応募しました。観光地化したエリアからほんの少しだけ離れた久留米の秋です。



「或る朝の情景」

中島 幸弘

いつもは何気なく通過していた通りでしたが、ある日、とても静かで、とても鮮やかな情景と出会うことができました。ビルが立ち並ぶ無機質な空間にも、こんな景観があるんですね。暖かくなった春の日にも、また違った情景が見れると歩きたくてきます。